

No. 355【2019年5月10日配信】

元号と地名・施設名(担当:村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。5月1日から元号が「令和」となりましたね。

「平成」という元号が決まった際は岐阜県に「平成^{へなり}」という地名があることが話題となりました。現時点で「令和」という地名はないそうですが、これまでも元号が変わると新元号にちなんだ名称が地名や施設名などに採用される事例がみられますので、「令和」も地名や施設名に採用されることでしょう。

そこで、今回は青森市内で元号にちなんだ地名や施設名を探してみました。

まずは「大正」です。古川2丁目の一部を指す町名(俗称)に「大正町」があります。肴倉弥八『青森市町内盛衰記』(1953年)によると、大正時代に開けた地区であることから「大正町」と呼ばれるようになったといわれています。大正15年(1926)に発行された地図「大日本職業明細図之内青森県」に「大正町」の表記がみられます。



大正町周辺
(大正15年発行「大日本職業明細図之内青森県」、歴史資料室蔵)

次に「昭和」です。篠田1丁目の一部を指す町名(俗称)に「昭和町」があります。西部六町会連合記念誌『わがまち』(1999年)によると、「昭和町」という町名が使われるようになったのは沖館地区が青森市に編入された昭和2年(1927)以降といわれています。昭和10年に発行された地図「青森市勢一覧」に「昭和町」の表記がみられます。

また、国道7号と新町通りを結ぶ通りに「昭和通り」があります。昭和初期までこの通りはなく、金沢堰という水路がありました。『青森市町内盛衰記』によると昭和10年に水路が暗渠となり、交通が便利となったことで繁華街が形成されたといえます。昭和通り商店街のホームページによると、この通りに決まった名称はありませんでしたが、商店街の方々が「昭和時代からどんどん栄えていけよう」との希望を込めて「昭和通り商店街」と名付けたそうです。

さらに、わずかな期間ですが「昭和女学校」という学校もありました。「昭和女学校」は青森高等女学校（現青森高校）などで教員を務めた柿崎平蔵（油川町出身）が昭和3年に設立した学校で、青森営林局（現青森市森林博物館）の向かいに校舎がありました。その後、昭和6年に浦町の新校舎へ移転し、校名を青森高等家政女学校と改称しました。



昭和女学校
(昭和7年発行「昭和六年青森市勢一覧」、歴史資料室蔵)

最後は「平成」です。下湯ダムの貯水池（ダム湖）は「下湯平成湖」と呼ばれています。下湯ダムは昭和49年に建設工事に着手し、平成元年（1989）3月に完成しました。つまり、平成の時代が始まって間もなく完成したダムなのです。



下湯平成湖